

特集 30代

創刊2年目を迎えた「モテモテさ」が「最初の特集は「30代」である。雑誌の仕事をしていると「マーケティング」という言葉をよく耳にする。どういう人を具体的に意識してコンテンツづくりをするか、という意味で使う場合が多い。好奇心があって購買欲の高い層はどこか。アクティブシニアや20代女性などは頻りに議題に上がるのだが、30代、特に男性が狙いになることはまずない。

江戸時代の武士は40歳で隠居というのでもザラだったから、30代は脂の乗り切った最も実績の残せる期間だった。明治維新の立役者たちの多くは30代だった。エジソンが蓄音機の発明に成功したのも30歳のときだった。まさに何かを成すべき世代なのだ。

現代の30代の状況はどうか。会社では一時代前の成功体験に固執しがちな上司と、「最小限の努力で賢い」という価値観で動く後輩に挟まれ必死でバランスをとる。家庭では難しい時期の子どもの距離感がうまくとれない、という声を良く聞く。これでは好奇心があっても気軽に動けない。

現在の30代は1971年から1981年生まれ。その多くは社会に出る前にバブル景気が崩壊。就職氷河期の中、なんとか職を見つけて働き出した。自分の周りや将来をゆっくり見つめる時間はそんなにな。そういう世代かもしれない。

佐賀の未来へ奮起しよう!!

東日本大震災後の政治のドタバタに象徴されるように、今、日本は大きなセイルを失って漂流しそうな状態だ。目指す方向性を指し示す船長も必要だが、船をきちんと制御する技術を持ったスタッフこそ重要だ。今、30代はその役割を果たしているだろうか。

今回の特集では特別インタビューとして、作詞家・秋元康さんに30代へのメッセージを頂いた。今、この世代が考えるべき示唆に富んだ言葉が山のように出てくる。ぜひ、何度も読み返してほしい。「佐賀の30代」のコーナーでは、基本的なデータと30代の人たちへのアンケートを掲載している。「平均的」という人間はいないが、いろいろとご自身の状況と考え合わせてほしい。「明治維新の30代」では、佐賀が日本という国を動かした時代に、この世代がどう活躍したかを描いた。時代の良し悪しではなく、どれだけ一生懸命動かすがポイントだ。最後に仕事+αとして地域貢献の活動をしている佐賀青年会議所（佐賀JC）の方にそのビジョンを語ってもらった。佐賀JCは30代がメインの団体。最も大きな視野で地域を見て、実際に行動している。

いろいろな問題が山積みの現在こそ、転換期とすべきチャンスではないのか。そのためには30代の奮起が必要だ。そうすれば佐賀は面白くなる。

30代とはどういう時代なのか。芸能界を席巻する女性アイドルグループ・AKB48の総合プロデューサーとして知られる作詞家の秋元康さん（55）に自らの経験談を語ってもらった。テレビや映画、イベントプロデューサーなど幅広い分野で時代を切り開いてきた秋元さん。失敗を恐れてあらかじめいろいろ考えるのではなく、「まず打席に立つ」ことの大切さや、現状維持に満足せず「予定調和」を壊すことの意義など、成功体験に裏打ちされた言葉には、現代社会を生きる上での示唆に富んでいる。（聞き手・中尾清一郎 佐賀新聞文化センター社長）



中尾 秋元さんがこれまでインタビューなどで語ってこられた言葉には「成功のためのヒント」というより、人生のヒントやビジネスマンとしての心構えみたいなものが詰まっているように思えます。自身の経験の中から紡ぎ出された言葉だと思いますが、中でも、美空ひばりさんと会われた時のエピソードが印象に残っています。

美空ひばりさんとの面会が転機

秋元 初めて美空ひばりさんにお目にかかったのは、テレビの収録現場でした。収録の合間に時間を取ってくださるとのこと、5〜6時間ずっと待っていました。お目にかかった時の第一声は「あなたのことは知っているわよ」でした。初めての顔合わせは、たったそのひと言だけだったんですが、僕は感動しました。

僕は作詞家といっても、専門的な勉強をしてきたわけでもなく、放送作家のアルバイトをしているうちに、気づいたら作詞もするようになっていただけなので、やがては大学に戻ろうか思っていましたし、作詞家と名乗ることが恥ずかしかった。プロのみなさんに申し訳ない感じでした。そんな

秋元 康さんに聞く30代

僕が書いた詞を、美空ひばりさんが歌ってくくださった時（川の流れのように）、1989年発売）、初めて作詞家という肩書をいただいたような気がしました。中尾 その後もいろんな転機があったと思うのですが、天皇陛下御即位20年（2009年）の奉祝歌の作詞をされた時、その仕事を受けられたことが意外でした。自身ではなぜ、自分にオファーがあったと。

秋元 当初、作曲家の岩代太郎さんから話があったんです。僕らがそんな大それたことをしたら、畏れ多いという理由で固辞するつもりでした。でも、奉祝委員会の方々にお目にかかり、その思いの強さに、「僕たちも日本人としてお祝いさせていただく」ということになりました。

その時に僕らが作らせていただく以上、何か新しいアプローチをしなければというところで、EXILEの話をしたんです。天皇陛下のお祝いなので、若い人にも祝ってほしいという思いがありました。委員会の方々は、大変理解を示してくださり、僕たちをサポートしてくださいました。中尾 秋元さんはやることなすこと何でも当たる。「なぜ」というノウハウを聞きたがるインタビューは多いが、それは無意味だとも思う。ただ、結果を振り返って、何がよかったと考えますか。

まず「打席」に立つ勇気を

秋元 サラリーマンでも公務員でも、何の職業でもそうですが、「まずは打席に立

始めたんです。

中尾 以前、若者といえば20代だった
が、現在は大人との分水嶺が30代ぐらい
になった感じもする。今の若者に送るメッ
セージは。

■若さとは「戻ってくる力」

秋元 一番伝えたいことは「人生は短い」
ということ。本当にやりたいことしか、
やる時間はない。「石の上にも3年」とい
う言葉があるが、それは何か目的があっ
ての3年。現状維持のための3年ではな
いんです。

僕もこれまでいろいろな経験をしてき
ました。ミスジャッジもしました。大人
になって、ミスしないようにいろんなこ
とを調べたり、先輩に聞いたりもしてき
ましたが、それでも間違える。つまり、
ジャッジすることには意味がないという
こと。右でも左でもいいから、突っ走る
しかない。若さとは「戻ってくる力」のこ
と。30代はどんな失敗をしても、戻って
くる力があれば大丈夫なんです。

中尾 最近のKポップをはじめ「韓流」
がブームだ。中国の経済成長を含め、韓
国や中国といったアジアの力をどう感じ
ているのか。

秋元 韓国がすごいのは、国内のマーケッ
トに限界があることに気付く、海外のマー
ケットに早く目を向けて、手を打ったと
いうこと。日本は内需に大きなマーケッ
トを持っていたことに加え、英語圏では
ないため、海外進出は無理だと思ってい
た。しかし、映画や音楽、スポーツにし
ても、イチロー選手やスタジオリブリ、
Bzの松本孝弘さんなどが、世界で活躍
するチャンスがあることを示してくれて

つこと」が大事だと思っています。球を空
振りしても、残りの1発がホームランか
もしれない。ヒットが出ることだってあ
る。3割打者でも7割は凡退するわけ
ですから。ほとんどの人は打席に立つ前に、
いろんなことを考えてしまします。でも、
僕は迷わないです。とにかくまず立っ
てみる。もし、大きく空振りしても、ど
れくらいバットとボールが離れていたか
が分かるし、ボールに目も慣れてくる。
まずは打席に立つことが一番です。

それに、目に映るものすべてが過去だ
と割り切れるかどうか。過去だからこそ、
そこにあって見えるわけです。僕は、目
に映るものは何も参考にしない。多くの
人は、花屋さんとヒマワリが高く売れて
いるのを見て、ヒマワリの種を蒔こうと
する。でもそれでは間に合わない。その
時にヒマワリではなく、タンポポを植え
られるかどうかです。組織の中にいると、
今のブームのヒマワリを育てようとし、
会社も許容してくれる。でもそこにはディ
レクター（遅れ）がある。結果はどうあれ、打
席に立つという勇気を、みなさんにも持っ
ていただきたいですね。

中尾 世の中には「ここをこうすれば、こ
うなる」と分かっていることしかやらない
人が多い。そこを外そうとすれば、もの
すごい抵抗があったりする。秋元さんは
「予定調和」を壊すということをよく言わ
れるが、秋元さんが考える予定調和とは
どんなものですか。

■人は予測がつくものには興味を示さない

秋元 人間は恋愛でも仕事でも、現状維
持が楽なんです。同じことをやっていれ
ば何も負担がない。でも「予定調和」とい

目に映るものすべては過去

う予測がつくものには、人は手を伸ば
さない。新聞だってそうです。今日は
こんなことが書いてあるんだろうと思
うと読まない。ところが、そこに予定
調和ではないものの「兆し」が見える
と、ぐっくるわけです。ある種の「逆
転の発想」ですが、僕は経験上、それ
を学びました。

30年くらい前に、当時ニッポン放送の
亀淵昭信さんから、サミー・デービスJ
r（米国のエンターテイナー）が歌った
「子供達を責めないで」の訳詞を頼まれ
ました。原詞のまま訳すと、「子供は純
粋」などというまっとうな詞だったん
です。それだとひねりがないので、そ
こで「私は子供が嫌いです」と逆説的に
訳しました。ポツになるかと思いまし
たが、それがヒットしました（歌・伊
武雅刀、1983年発売）。みんなが「こ
うくるだろうな」という時に、どれだけ
違う考え方ができるかだと思います。

ヒットの第1のポイントは「摩擦係
数」。だれかが嫌だとか、こんな駄目
だとか、摩擦がなくて「スルッ」とした
ものでは、テレビCMでも気付かれない
です。新聞の紙面でも興味は引きませ
ん。

中尾 予定調和を壊す時には、予定調
和とは何かを理解することが重要で
す。秋元さんは、これまでの発言を見
ても、日本の良き価値観を大切にされ
ているようですが。

秋元 僕はすごくコンサパティブ（保
守的）ですよ。物をあまり知らずにこ
の世界に入ってしまったし、ごく普
通のサラリーマンの家庭に生まれたの
で、すべてが普通でした。20、30代のこ

ろ、ニューヨークとか、パリとか、ロン
ドンとかに旅行してしましたけれど、あ
る時に自分はまだまだ日本のことを知ら
ないだけだと思いました。物を知らな
かっただけで、ニューヨークのアポロシ
アターはすごいと思いました。実は日
本の嘉穂劇場（福岡県飯塚市）を初めて
見た時もすごいなと驚いたんですよ。

中尾 先日、福岡でHKT48のオーディ
ションを行った時に、秋元さんは、九州
にいる彼女たちに活躍する「場」を提供
するみたいなことを言われていた。

秋元 AKB48は、チャリディンクに
似ています。ぱっと見は華やかですが、
実際は「体育会的」なものです。毎日練
習するし、疲労骨折するくらい頑張った
りする。入ってから、イメージとの違い
に驚く人も多いですね。

中尾 AKBの「総選挙」にしても、運動
会では順位をつけないなど、現代社会
の予定調和を壊すという点にも似てい
る。

秋元 総選挙には、そんな意識はあり
ませんでした。AKBで予定調和を壊す
とは、大人が決めるのではなく、ファン
の声を聞くということ。これまでは
ファンの声を聞くといっても、ボーズだ
けのことが多かった。遊園地のゴーカ
ーみたいなもので、ハンドルは子どもが
握っているが、レールの上を走っている
だけ。それはしないというのが、AK
Bの信念。選抜メンバーにしても、当
初は僕が選んでいましたが、「なぜあの
コを出さないんだ」「秋元の目は節穴か」
とファンからクレームが出たので、そ
れならプロ野球の「夢の球宴」のよう
にオールスターを選ぼうということ

右でも左でも走るしかない

ようやく気づき始めた段階です。

韓国は海外に対してのアプローチが早
く、音楽、映画、メークなどのファッショ
ンから始まり、現在は車やパソコンなど
がアジアに広がりを見せています。日本
では起業家が減っているが、今後、韓国
やインド、中国からはいろいろな人材が
出てくるのではないかと考えています。

中尾 秋元さんはよく「カルピスの原液」
が大切と言われる。秋元さんの言う原液
とはどんなものか。

秋元 例えば、『もし高校野球の女子マ
ネージャーがドラッカーの「マネジメン
ト」を読んだら』（岩崎夏海著）にして
も、「食べるラー油」にしても、AKB
48にしても、意外なところからヒットが
生まれます。何がヒットの原液になり得
るのかは分からない。僕のところにも、

原液を求めているいろいろな方が来られま
す。その人たちは、まず器を決めていま
す。こんな細長い器に合うものとか、深
い器に合うものとか。でもそんなものは
関係なくて、コンテンツがおいしければ、
テーブルの上にそのまま置いてあっても
食べるんです。おいしいと分かっている
器を考えればいい。

AKBもまず、秋葉原の劇場に人を集
めることを考えてやってきました。やっ
ている間にネットゲームやアプリ写真集
などと広がりを見せたんです。一つのこ
とから「何を見るか」が大切になってく
ると思います。まず、自分の面白いこと
をやる。それが原液となって「そのコン
テンツを」薄めたい」と思う人たちが集
まってくるということではないでしょ
うか？



あきもと・やすし 作詞家。美空ひばり「川の流れるように」をはじめ、EXILE「EXIT」、ジェロ「海雪」（第41回日本作詩大賞受賞）、AKB48「Everyday、カチューシャ」などヒット曲多数。TV番組の企画構成、映画の企画・原作、雑誌の連載など幅広く活躍中。国民的アイドルグループ「AKB48」「SKE48」「SDN48」「NMB48」の総合プロデューサーを務めるなど、常に第一線で活躍するクリエイターとして、注目を集めている。今年はAKB48の福岡版として「HKT48」を企画。7月にオーディションを行うなど準備を進めている。

佐賀の

30代



king_yuta ■年齢：31歳
 ■職業：『衣食音』ライフスタイルプロデューサー
 ■性別：男性
 ■好きな歌手：SCOF
 ■好きなスポーツ選手：興味なし
 ■好きなドラマ：結婚できない男（阿部寛主演）
 ■30代までに達成したこと：夢の階段のドアを開けた。
 ■40代までに達成したいこと：夢の階段を上りきる



seniunini
 ■年齢：31歳
 ■職業：絵描き、もしくは産学官連携研究員
 ■性別：女性
 ■好きな歌手：好きとかくほど今は聴いてないからいない
 ■好きなスポーツ選手：スポーツ見るの好きじゃないからいない
 ■好きなドラマ：北の国から
 ■30代までに達成したこと：まだ30代入口だからまだ。
 ■40代までに達成したいこと：絵だけで食いたい。



匿名希望 ■職業：会社員 ■性別：男性
 ■好きな歌手：ビルエバンス・フィッシュマンズ
 ■好きなスポーツ選手：ジャックマイオール
 ■好きなドラマ：特になし
 ■好きな映画：ナイトオンザプラネット、グランブルー
 ■30代までに達成したいこと：アイドルプロデュース
 ■40代までに達成したいこと：先のこと過ぎてわかりません。



chisatoo00
 ■年齢：31歳
 ■職業：画家
 ■性別：女性
 ■好きな歌手：BIGBANG
 ■好きなスポーツ選手：長谷部 誠
 ■好きなドラマ：Lie to me
 ■30代までに達成したこと：子どもを生む
 ■40代までに達成したいこと：親孝行する



梅木誠太郎
 ■年齢：35歳
 ■職業：フリーマガジン編集長
 ■性別：男性
 ■好きな歌手：トム・ウェイツ、前野健太、佐野元春
 ■好きなスポーツ選手：イチロー、落合英満、ストイコビッチ
 ■好きなドラマ：キツイ奴ら、ギフト、ビバリーヒルズ青春白書
 ■30代までに達成したこと：25キロ太って、25キロ痩せた
 ■40代までに達成したいこと：等身大ガンダムを佐賀に呼ぶ。日本全国を巡る。



ri_ha ■年齢：30歳 ■職業：公務員 ■性別：男性
 ■好きな歌手：Michael Jackson
 ■好きなスポーツ選手：特になし
 ■好きなドラマ：SP
 ■30代までに達成したこと：家建てる、仕事で何でもできる主任になる
 ■40代までに達成したいこと：未定



yujinHIRASE ■年齢：34歳
 ■職業：建築家・大学教員
 ■性別：男性
 ■好きな歌手：なし
 ■好きなスポーツ選手：なし
 ■好きなドラマ：なし
 ■30代までに達成したこと：地域の人々に愛される建築をつくる
 ■40代までに達成したいこと：世界で評価される建築をつくる



山下俊一郎
 ■年齢：36歳
 ■職業：看護師
 ■性別：男性
 ■好きな歌手：山崎まさよし、奥田民生
 ■好きなスポーツ選手：マイケルジョーダン、クリス・マリン（共に初代ドリームチームのメンバーです）
 ■好きなドラマ：最近「それでも、生きてゆく」
 ■30代までに達成したこと：看護師になった。持ち家を手に入れた。バスケットを再開した。
 ■40代までに達成したいこと：もっと勉強して、もっといろんな資格をとって、早く一人前になること。



匿名希望 ■年齢：37歳
 ■職業：会社員 ■性別：女性
 ■好きな歌手：福山雅治 EXILE
 ■好きなスポーツ選手：川崎宗則
 ■好きなドラマ：華和家の四姉妹
 ■30代で達成したこと：マイホーム
 ■40代までに達成したいこと：海外家族旅行、息子に託した夢を叶えてもらうこと



atokoo
 ■年齢：33歳
 ■職業：主婦・事務員
 ■性別：女性
 ■好きな歌手：トッド・ラングレン
 ■好きなスポーツ選手：フィギュアの中野友加里選手
 ■好きなドラマ：探偵物語
 ■30代までに達成したこと：とくになし、子を産んだこと
 ■40代までに達成したいこと：特技を身につける

佐賀県30代の年収

(厚生労働省「平成20年賃金構造基本統計調査」)

男 388万円
 (全国平均 448万円)

女 291万円
 (全国平均 315万円)

佐賀市の全人口に占める30代の比率



(平成17年国勢調査から)

30代の中で結婚していない人の比率



(平成17年国勢調査から)

30代の中で離婚した人の比率



(平成17年国勢調査から)

母子手帳交付に占める30代の割合



「世」という漢字は、十が3つ重なった形だそう。親子の年齢差がおよそ30年とすれば、親子が次の世代に入れ替わる時間に当たる。2回を終えて60歳になると人生も一段落。確かに「節目」を感じられる数字ではある◆世代意識はヨーロッパを含め広く共通しているから面白い。歴史変動リズムを世代論で読み解いたのが思想家オルテガだ。時に葛藤しながら時代を動かす世代と世代のはざまに、古い価値観が力を失う一方で次の展望が見えない「歴史的危機」

世代交代 30年

が生まれる、と。そして10倍の300年ごとに大事件が起きると分析した◆古代インドでは、人生を4つの節目に分ける考え方があった。まず学び、次いで一家

人生は25歳×5あるんである。



を背負い、出家して精神修行、最後には一切を越えた境地になることを理想とする。よく知られる大隈重信の人生125歳説では、人間は25年を5回生きる能力を持っているそう◆侍の世界で

侍の40歳は隠居

は、40歳は隠居の年。30歳代まで家の大黒柱として頑張り、家督を譲った後は口出ししないのを理想とした。ますます混迷する21世紀に目を移すと、3代続きの60代政権。社会で先輩の影響を受けるのは当然だが、良くも悪くも世代の影響が消えるには30年かかるそう。世代論から言えば、今日の混迷を乗り越え日本再生のカギを握るのは、今の30代なのかもしれない。

佐賀の七賢人、その時



島義勇 45歳



佐野常民 45歳



鍋島閑叟 54歳



大木喬任 35歳



江藤新平 33歳



副島種臣 39歳



大隈重信 30歳

明治維新の時期についてはとらえ方に幅があるので、ここでは1868年3月の「五箇条の御誓文」公布を基点としました。

明治の元勳たち

西郷隆盛	大久保利通	桂小五郎	勝海舟	岩倉具視
40歳	37歳	34歳	45歳	42歳

近代化を回したインテリ集団

と評され、藩閥を越えて信頼が厚かった。佐賀人脈の源流はもう一つ。佐賀の吉田松陰と呼ばれる枝吉神陽の私塾に集った若者が中心となった。神陽の実弟である副島のほか、北海道開拓の父・島義勇、大木、江藤、大隈がいる。島と同年で日本赤十字社の創設者として知られる佐野常民もまた、蘭方医から軍艦、蒸気機関開発の技術者に転じたインテリだった。同時代の他藩を見ると、坂本竜馬が大隈より2つ先輩、西郷隆盛が副島種臣と同じ年の生まれ、桂小五郎は江藤より1つ上。やはり30代が主流になっている。これら革命の英雄たちも、明治の半ばになると、十把一絡げにして「天保生まれの老人」呼ばわりされ、批判的となった。盛りを過ぎた世代の悲哀さえ感じられる。

維新の30代

サラリーマンの世界では、30代は「板挟みの世代」と言われる。幹部からの期待と後輩からの抵抗に、ストレスをため込んでいる方も少なくないだろう。管理職でもないのに管理職に準じた役割も背負わされる微妙な「はざま」の年代だ。きつい役回りだが、裏を返せば、組織の上からも下からも期待される。中核世代と見ることもできる。社会人として一通りの経験を積み、体力もまだまだ残っているのだから。日本の近代をこじ開けた明治維新の30代は、まさに社会の中核として、超人的なバイタリティーを発揮した。

乱世駆け抜けた熱血リーダー



幕末に私塾を開いた国学者の枝吉神陽は、尊王討幕の旗色を鮮明にして「義祭同盟」を結成。この活動のなかから大隈重信、副島種臣ら七賢人のうち5人を輩出した。今日、義祭が行われた楠社のそばには顕彰碑が建てられている＝佐賀市白山

藩閥政治の一角を占めた佐賀人脈のうち、特にあがめられる「七賢人」の主流は30代だ。維新を、仮に新政権の形が整った「五箇条の御誓文」公布の時点で区切れば、殿様の鍋島閑叟公は別格として、残る6人のうち30代が4人、40代が2人。40代の2人も、黒船来航に始まる幕末の動乱を20代から30代にかけて体験し、藩政改革に奔走した。

ちょうど30歳で新時代を迎えた大隈重信は、総理大臣に上り詰めるまで、七賢人のなかで最も活躍が長かった。長崎で培った英語と西洋知識で新政府に重用され、33歳には参議、35歳で大蔵卿に抜てき。地租改正や貨幣の制定、財政政策の基盤を築いたほか、外交にも手腕を発揮した。ただ、薩摩勢とは何かにつて確執があり、失脚の憂き目に

あっている。特に西郷隆盛との不仲はよく知られる。西洋合理主義にも似た大隈が気に入らず、西郷は「武士らしくない」と切り捨てたという。10歳の世代の溝が生んだ確執といえるのかもしれない。

次いで若い江藤新平は33歳。東京遷都を主導、学制を整え、司法卿に就任したのが38歳。民法編さん、裁判所建設、警察制度の整備など、近代司法の基盤を築いた。政権内の汚職にも容赦なくメスを入れたため、保守派からは煙たがられたようだ。大久保利通の陰謀もささやかれる、佐賀の乱の後の壮絶な最期は知ってのとおり。江藤とともに東京遷都を進言した大木喬任は27年上。民部卿、文部卿として政権の中核で活躍したのは30代だった。倒幕に出遅れた佐賀藩人脈が新政府で存在感を発揮できたのは、長崎仕込みの洋学が大きく貢献した。豊かな近代知識をそなえ、新時代になくてはならないインテリ集団だった。その代表が維新を39歳で迎えた副島種臣。佐賀藩が長崎に設けた英学塾で大隈とともに教頭を務めた秀才。書道家としても知られるように、世間に「知識人の典型」

55周年 佐賀青年会議所に聞く

佐賀の30代といえば佐賀青年会議所（佐賀JC）。第40回を数えた「佐賀城下米の国まつり」を裏方として支え、成功に導いた佐賀JCは今年、創立55周年を迎える。地域のために、自分の時間を削って働き続ける佐賀JCの活動には、これからの佐賀人の姿を示すヒントがある。佐賀JCの第56代理事長の小原晴義さんと筆頭副理事長で第57代理事長予定者の木下壮太郎さんに佐賀JCの活動や、30代へのエールを伺った。

★JCとはどういう団体なのか。

小原晴義さん（以下「小原」）JCには3つの信条がある。地域への奉仕、自己修練、世界との友情。この信条を実践すべく活動している団体だ。特徴としては20歳から40歳までという年齢制限があること。このルールは世界各国共通だ。韓国だけは徴兵制度の関係で42歳まで続けることができる。

現在、佐賀JCの会員数は150人。会社経営者や後継者だけではなく、会社員や公務員、主婦の方もいる。

木下壮太郎さん（以下「木下」）日本ではJC＝男性というイメージかもしれないが、世界的に見ると女性会員の方が多い。特に欧米はトップが女性というケースもある。日本もこれだけ女性の社会進出が進んでいるのだから、女性会員の数が増えるべ



佐賀青年会議所正副理事長のみなさん

佐賀青年会議所理事長
小原晴義さん

常に時代の 先導役として地域に貢献

き。佐賀JCでも女性の視線から街づくりへの提言などに参加してほしい

★佐賀JCは今年で創立55周年ということだが、その活動内容は？

小原 慈善事業や講演会や「米の国まつり」の主催、政策の提言などを行ってきた。JCは単年度制。1年ごとにいろんな活動に取り組んでいく。例えば今年のメイン事業は55周年式典の開催となっている。2007年度は佐賀JCエコアクションとして環境清掃に取り組んだ。単なるゴミ拾いではない。佐賀駅前や中心市街地のタバコの吸い殻を拾いながら、その状況を分析しデータ化、佐賀市へ規制条例づくりを訴えた。実際に2009年には、県内で初めて市役所やJR佐賀駅などを含む約18ヘクタールが「路上喫煙禁止地区」に指定された。

今年の佐賀JCのスローガンは「絆」。先日開催した親子三代で参加するキャンプには約100人が参加した。そこで製作したベンチは東日本大震災の被災地である気仙沼へ贈った。被災地の自治体に、こういう支援が必要か尋ねたところ、仮設住宅は出来たが住民同士がコミュニケーションをとるような機会が少ない、との指摘があった。そこでみんなが外に出て、いろんな話ができるようにベンチを作ることに決めた。完成したベンチは被災地へ持参し、各仮設住宅で贈呈式を行った。親子三代が同じ作業を

そういう期限が決まっていることに面白さを感じた。また社会人となって、それなりの立場になってみると、なかなか怒られることはない。JCの諸先輩方から叱咤激励を受けることは自分を成長させることにつながった。JCは県内に7団体、全国に704団体、世界約100カ国に18万人の会員がいる。ひとつのテーマで全国から集まって具体的な活動を行うこともある。同じように日本や地域を愛する志の高い人と仕事をするチャンスがある。普段の仕事では業界内のつきあいに偏りがちだが、ここでは自分の考え方や幅を広げることができる。

小原 27歳で入会したとき、ちょうど市町村合併をテーマに活動していた。JCはいち早く、合併協議会設置の4万人署名を開始しており、いきなりその現場に放り込まれた。毎日、仕事が終わってから呼び掛けと、頂いた署名のチェックを夜中まで。とんでもないところに入ったな、と思い、自分に出来るかどうか不安に思ったが、先輩たちのサポートもあり乗り切ることができた。それから10年を経て、新佐賀市民として旧佐賀市と周辺自治体が融合している様子を見ると感慨深い。10、20年後を見据えて行動する団体というのが魅力だ。

一番面白いのは個性的なメンバーと仲間になれること。ドブさらいや空き缶拾いなど、一緒に汗をかき、苦楽を共にした仲間が一生の友人だ。

通じて「絆」を深め、出来上がったものが被災地へ生き、佐賀と東北の「絆」となった。

木下 JCは常に時代の先導者となるよう活動している。地域の先を見据えて行動している。これまでも市町村合併の旗振り役などを担ってきた。身の回りのことを大きな目で見たとき、地域、市民にとって何が必要なのか。地域のために「先を見て」行動する団体だと思う。そのために会員は自分の知恵や時間を削って活動する。「明日のために、今日少しの犠牲を払う」ということ。自分の仕事に加えて、地域のための役割を果たす。そういう経験が自己修練につながり、自らを成長させる。

★普段の仕事に加えて地域のために活動する。負担も大きいと思うが、それでもやり遂げてしまうJCの魅力は何か？

木下 自分が入会したのは30歳のとき。活動期間は残り10年しかない。それまでに何が出来るのか。



佐賀青年会議所筆頭副理事長 木下壮太郎さん

★最後に現在、30代の人にメッセージを。

小原 30代はどういう組織であっても、メインで頑張っている世代。会社であっても責任ある役職を得て、家庭においても子どもを育てたりとバリバリ働いている印象だ。ゆとり世代の20代を粘り強く指導しながら、団塊世代のパワフルな50、60代の助言に耳を傾ける。間に挟まれながら頑張っている人も多い。

会社や家庭だけでなく、JCでなくてもいいから、地域のことも目を向けてほしい。河川清掃や体育大会などちょっとしたことでいい。参加することによって人生観が大きく変わる。視野が広がれば会社も家庭も、もっと充実したものになるのではないかな。

木下 今、自分がこの世に存在することに感謝の心が必要。親、先祖、地域、いろんなものに支えられた存在なのだ。自分を深く見つめ直したときに、自分が何をなすべきかを考えてほしい。家族、先祖、地球に恩返しするために、自分に何ができるのかを自問する。

30代はいろんなことをやらなくてはいけない世代。高い目標を持って、それに向かって精一杯努力する。例えば、日本という国のことを、世界中に人たちに伝える。自分の住む国や地域の存在価値を高める。そうするといろんなプラスが生まれてくる。30代が一番、世の中を変えられる!!